

佐々木克典 (著)

外科医のための局所解剖学序説

岡村 均

(神戸大教授・分子脳科学)

本書は、日本で初めての、臨床の役に立つ本格的な「局所解剖学」の書である。臨床外科医の経験を持たれる解剖学者の著者が、臨床に役に立つ解剖学実習とは何かという疑問に正面から取り組まれた、実にオリジナルな書であり、目から鱗が落ちる記述が満載され、解剖学を学ぶ学生や教師にとっても、外科臨床に携わる医師にとっても非常に有用な本であると言える。私は、解剖学教育に長らく携わって来た者として、これから医師になるために人体解剖学実習を行っている多くの医学生に、特にこの本を推薦したい。

いったい解剖学とはどんな学問であり、解剖学実習とは何を目的にするのだろうか？ 解剖学は体の形態と構造から生体の秘密を探ろうとする学問である。その手法は、見えるものすべてに名前をつけ、形を認知することから始まる。構造を明らかにするために、解剖学〔anatomia (ana すっかり, tomia 切る)〕の名のごとく、外部のみではなく、内部を切り分けて研究し、名前をつける。医学部で行われる人体解剖学実習の目的は、言うまでもなく医学の基礎知識としての解剖学の取得であるが、実は、日本においては、先に述べた解剖学の本来の学問の意味の追体験として行われている。これは、何が医学的に重要な知識を持ち合わせていない学生に対し、最初

に行われる体系的な専門教育としてやむを得ない措置であるが、医学生にすれば、名前を覚えることはむやみに漢字や英単語を覚えることのように無味乾燥なものとなり、その学習意欲が削がれることが往々にある。

解剖学は名前をつけるだけの、死んだ時代遅れの学問なのであるか？ 歴史を紐解くと、人体解剖学は、近代の人間精神の確立に最も貢献があった輝かしい学問であることがわかる。「ヒトが筋肉、骨、内臓、神経からできている」という解剖学の発見は、ルネサンスにおける最大の成果の一つであり、中世の信仰から人間を解放するという社会や人間精神に及ぼしたインパクトは、現在の分子生物学の比ではなく、はるかに大きい。しかし、16世紀に人体解剖学が確立してからすでに400年以上にもなり、人体理解のための基礎学問としての重要性は失われてはいないものの、如何せん時代の流れは大きい。19世紀以降、相次いで、生理学、微生物学、病理学、生化学が勃興し、20世紀後半には、生物を分子レベルで記載する分子生物学が爆発的に進展し、医学・生物学を塗り替えた。ここに至り、科学的思考は他の学問でも代替可能なものとなり、解剖学の存在意義を、より実用的なものに求めるようになったのは当然の推移であった。

これに対応し、米国では、臨床医学にとって必要な、「実用的な解剖学」が比較的早く要求されるようになった。すなわち「臨床解剖学」の成立であり、臨床的に重要なことを理解するための基礎知識を得るために解剖学があるという認識である。この動きは数十年前からあったが、不思議なことに、日本では「臨床解剖学」として、本格的に解剖学を再構築する試みは一般化されず、解剖学教育に「臨床的に重要なもの」を取り入れ、その分、従来の教育を削るといういささか場当たりのとも言える対応で対処されてきた。

この解剖学書は、臨床医学を見据えた本邦初の本格的な局所解剖学書であり、このような日本の現状には大変有用な書である。本書では、臨床的（特に外科学）に重要な点は、非常に詳しく、細かい所見も載っている。多数の収録された図はほとんど著者のオリジナルで、的確に描出されており、読者は読んでいるうちに、あたかも心臓の構造を手にとって見ているような気にさせる。また、著者は、「タイムクリップ」の欄を設け、ここで、解剖学の臓器に関する歴史や、その臓器に対する疾病の術式を考案した医師のエピソードを実に魅力的に記載している。その博覧強記には驚くべきものがあり、書物で名前を聞くだけの歴史的な人物に親近感を抱かせるもので、医学生にとっても興味深い。

著者の佐々木克典氏は、外科医としての豊富な臨床経験の後、解剖学に向かわれ、主体的に解剖学の授業・実習に取り組まれている。出来上がったものは、米国の臨床解剖学書とは一味違った、型破りの日本の解剖学書である。本書は人体解剖学を臨床の目から再構築

しようとする意思に貫かれた解剖学書であり、人体解剖学実習の臨床的意義を知るには必読の書であるといえる。難解な内容がわかりやすく解説され、興味深い話題が豊富に盛り込まれているので、人

体解剖学実習を行っている医学部生だけでなく、解剖学教官が医学部その他の教育の場で人体解剖学の講義をする際に、学生に何が重要なのかを知らせるためにも、大いに役立つと思われる。もちろん、

解剖学を再び学習したい外科医の要求に答える内容であることは言うまでもない。

●A4/頁 288/2006 年/定価 12,600 円 (本体 12,000 円+税 5%)

[ISBN4-260-00032-2] 医学書院 刊